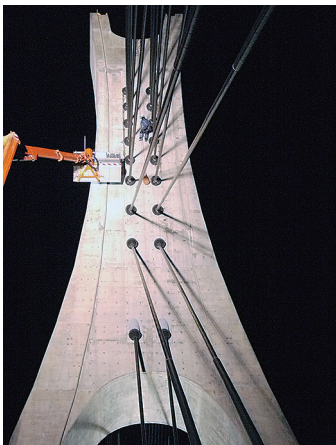


上信越道碓氷橋を近接点検

NEXCO東日本関東支社は、6日午後9時から7日未明にかけて上信越自動車道を通行止めにして碓氷橋（PC斜張橋）の近接目視・触手点検を実施した。2014年7月の道路法施行規則改正による直接近接目視点検の義務付け後、初の点検で、業務を委託した特殊高所技術（東京都）の点検員が、主塔頂部からロープで降下してケーブル定着



ロープで上昇・降下しながら主塔を点検する
特殊高所技術の点検員

は、従来の望遠鏡などによる遠望目視点検から、直接近接目視の点検に変更された。碓氷橋は、車線直上に鋼線が配置されており、近接目視・触手点検のためには上信越道の通行止めが必要になっていた。通行止めを必要としない下部工などの点検は、すでに7月までに完了している。

6日午後9時か

部などを確認した。

碓氷橋は、上信越道松井田妙義IC～碓井軽井沢IC間に位置する長さ2222mの2径間連続PC斜張橋で、逆Y形の主塔（高さ113m）が桁を鋼線で一面吊りしている。1992年の土木学会田中賞を受賞するなど構造的・景観的に高く評価されている。

特殊高所技術が触手確認

道路法初 改正後

らの上信越道通行止め後、点検員が主塔内の点検路を使って主塔頂部に上り、下降・上昇しながら頂部から中間部までのコンクリートの打音やケーブル定着部のゴム製カバールの触手点検などを実施した。主塔中間部以下は高所作業車3台で点検した。特殊高所技術の点検員は「ケーブルの間などは高所作業車では入り込めず、触手点検をするためには人が降下するしかない。ロープアクセスとは異なる安全性の高い技術を生かして、作業車が届かないところを点検できるほか、ひび割れなどを近接での写真撮影も可能だ」とした。

関東支社の久保竜志佐久管理事務所長は、「点検作業のロボット化も検討したいが、機械の落下リスクなど課題も多い。現段階では直接、触って点検することが重要だ」と強調した。

